

家族の起源—ゴリラの社会学— 山極寿一  
 人間の条件を探る 江原昭善  
 神経生理学実習 三上章允  
 心理学実習 松沢哲郎  
 形態学実習 相見 満

## 夏期セミナー（第2回）

学部学生を対象とした夏期セミナーを開催した。70名を超える応募があり受け入れ限界の40名とした。東北大学から九州大学まで16大学からの参加があった。

7月30日（月）

9:30~10:00 ガイダンス（竹中 修）  
 10:00~11:00 形態基礎研究部門（毛利俊雄）  
 11:00~12:00 神経生理研究部門（久保田競）  
 13:00~14:00 心理研究部門（小嶋祥三）  
 14:00~16:00 社会・生活史研究部門・ニホンザル野外観察施設（杉山幸丸、加納隆至、大澤秀行）  
 16:00~17:00 所内見学  
 19:00~ 懇親会

7月31日（火）

9:00~10:00 変異研究部門  
 10:00~11:00 生理研究部門（目方文夫）  
 11:00~12:00 生化学研究部門（景山 節）  
 13:00~14:00 系統研究部門（相見 満）  
 14:00~15:00 サル類保健飼育管理施設（松林清明）  
 15:00~17:00 総合討論（各関係教官）

## 市民公開日について

広報委員会は平成2年度より研究所の市民公開日をもうけることとした。これにはいくつかの理由がある。まず研究所が目的としているところや現在行なっている研究を地域の人々に知ってもらい理解をいただくことが第一の目的である。ついで所内のサルのケージが動物園のようにはなっていないので危険であることや1989年10月のチンバ

ンジー逃亡事件の際、外に出た「アキラ」が所内に遊びにきていた小学生につられ所外に出たこともあり、事件を契機として研究所を原則として立入禁止にしたことも理由のひとつである。

公開日を平成2年10月21日（日）午後1時より4時までとした。予測がつかないので初年度は丸山、富岡地区の中学生以上の人たちを対象とし、各区長にお願いし案内状をおくった。好天に恵まれたこともあり、約100名の来訪者があった。所長の挨拶と岩本光雄教授による「サルの話」という約一時間の講演の後、約二時間の放飼場の見学、研究所紹介のビデオやパネルを使った研究の説明と質問の時間をもうけた。また1.感想、2.研究所への意見、注文などの項目でアンケートを依頼したところ30名からの回答があり、殆どすべて好意的なものであった。（文責：竹中 修）

## 学位取得者と論文題目

理学博士（課程）（霊長類学専攻）

山下晶子：Ontogeny of cholecystokinin-immunoreactive structures in the primate cerebral neocortex.

理学博士（論文）（霊長類学専攻）

Bambang Suryobroto: An estimation of the biological affinities of seven species of Sulawesi macaques based on multivariate analysis of dermatoglyphic types.

理学修士（霊長類学専攻）

揚妻直樹：ヤクシマザルの活動時間収支と遊動域利用

植木浩一郎：行動発現のメカニズム—運動関連皮質の機能

大野央人：チンパンジーにおけるラテラルティの発現

小川秀司：チベットモンキーのブリッジング行動における三者の社会関係